

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4771400035		
法人名	有限会社 ほしくぼ		
事業所名	グループホームほしくぼ		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字湧川1578-3番地		
自己評価作成日	平成24年7月2日	評価結果市町村受理日	平成24年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=4771400035&SCD=320&PCD=47
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、静かな落ち着いた、自然豊かな場所で、庭にある季節の花々を見ながらゆっくり穏やかな時を過ごしている。開設10年目を迎え、開設当初からの職員も多く家庭的な雰囲気を大切に、なじみの関係を構築している。職員全員で考えた「おいしい物を、おいしく食べ、自由に生きる」を利用者へ提供できる様、楽しみの1つの「食」も大事に出来るよう取り組んでいる。
 重度化・看取りに対しては、事業所在中の看護師、又村内の診療所の医師の協力体制があり、日頃の健康管理を含め、緊急な事態などにも対応している。終末期ケアに関しても本人・家族の要望に応じ、望む方に関しては当事業所での看取りも実施している。住み慣れた家で、「終の棲家」となるよう最期まで「本人らしく過ごす」事が出来る様、診療所の協力のもと、職員一丸となり取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・開設10年を経たこの施設は、開設当初からの職員が多い。入居者と馴染みの関係が深いのか、施設内は「入居者の会話や笑声」が主体である。職員は静かに寄り添い一人ひとりの入居者の生活を尊重し 早朝の花壇造りや礼拝等 入居者の生き方を大切に支援している。
 ・協力医療機関の協力を得て、利用開始時に「看取りの要望」を確認し、理解と研修を積み重ね「利用者家族の要望に応えるべく」開設後6例の「看取り」に応じてきた。家族と共に職員は「臨終」に対する学びを深める事ができ 他の入居者も「看取りや見送り」を受け入れている。
 ・地域での災害対策に 地域住民や行政と連携を持ち 施設として可能な地域支援に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示、又日誌のファイルに貼りいつでも確認し共有できるようにしている。どんな介護をしたいか、話し合い、理念を共有し実践へつなげられる様努めている。	新たにH21・22年に「地域に根差し家庭的な安心できる支援を」と考え全職員で作成した。理念は掲示し「理念に沿った支援」を確認し、職員会議等で共通理解している。入居者家族や地域への広報は今後取り組みたいと考えている。	理念は事業所の姿勢を入居者家族・地域に理解され、より地域の支援が享受されるよう家族地域住民に広く周知されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	代表者は、地域の清掃活動に参加し行事の際は着付け等で手伝い参加している。区長より依頼あり区の監査委員も務めている利用者の方も希望者の方は豊年祭や敬老会に参加している。近隣の方から野菜の差し入れ等もある。	自治会に加入し地区のデイサービス・ユイメール事業・清掃活動に職員や管理者が参加協力し、村の総合祭りには入居者の作品を展示したり「認知相談コーナー」を設け施設全体で参加している。又朝の散歩では近隣住民と挨拶を交わし交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、区の老人会のユイメール事業に参加。看護師として健康チェックに関わった事がある。今後継続して認知症の理解等を得られるように活動していく必要がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ホームの活動状況の報告の実施。又ヒヤリハット・事故報告等を行い参加者の皆様からの意見を参考に、サービスの質の向上に取り組んでいる。	2か月に1回 入居者・家族・行政職員と地区代表者が参加し実施している。年度初めに推進会議の目的を共通理解し、外部評価の報告や地域防災対策・リスク分析結果等報告し、防災時の役割やリスク管理を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただく中で、利用者さんの状況の報告、災害に対する相談などで連絡を取り、協力関係が取れるよう取り組んでいる。又村の関係者等と協力し総合まつりなどにも参加している。	推進会議の委員が行政の担当で困難事例や地域防災対策の施設役割として避難所・備蓄等地域支援を検討している。又社協とは認知症の困難事例の連携を持ち、ケアマネ会議や事例検討会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針を、入所時に説明している。玄関等は夜間のみ施錠し、日中は鍵をかけずに玄関先の花園の世話など自由に出来るような環境作りを心がけている。勉強会などを通し、日々の介護が身体拘束になっていないか振り返り考える機会を持ち身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者家族には入所時に「拘束はしない」ことを説明し理解を得ている。職員は「拘束は人権を侵害する行為である」と研修を行い認識浸透している。入居者の行動を制止することなく職員の声掛けは穏やかである。夜間の施錠は20時から5時で居室から庭に出られ開放的な構造である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員にて高齢者虐待に対するDVDの鑑賞・事例検討などを実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透に向けた取り組みを行っている。		

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会等で実施する、成年後見人制度の研修に参加している。 利用者の方でも、成年後見人制度を利用している方もいる。今後必要な方がいれば、情報提供など協力し円滑に進むように、さらに理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には、重要事項説明書にて説明・同意後、契約書にて契約を行っている。都度、疑問点の有無について確認し、理解しやすい言葉に配慮し理解・納得していただけるように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者・家族にも参加していたが、意見や要望をもらっている。意見箱など設置しているが利用はほとんどない。面会時に話をする時間を設けている。入所時に市町村の相談窓口や事業所以外にも窓口がある事を説明している。	入居時や面会時に家族の要望を聞く機会とし、朝食時間を朝7時30分から7時の変更や減菜希望を調整した。入居者からは、日ごろのケアの中で要望を聞く機会としている。買い物や教会への礼拝希望等を確認し継続できるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が管理者に対して意見や提案が言いやすい環境作りを心がけている。 ミーティング時にも意見を言えるような時間をとり出した意見は検討し、反映できる様に心がけている。	職員会議は月1回持ち 入浴支援の時間帯の変更等の業務改善の検討や事例検討を行い支援の共有を図りながら職員の意見を反映するよう調整している。又 職員の体調を考慮した勤務が継続出来るよう「夜勤や入浴支援」に配慮した勤務体制を全職員で話し合い理解実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社員の登用や、資格者の資格手当などの整備に努めています。 又職員の勤務内容を希望に応じて調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修はなるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修後は報告書を記載し、ミーティングの場で内容等を発表し、他の職員も共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに職員の研修を実施し、事業所以外の意見や経験を活かしている。 県グループホーム連絡会に登録・参加し質の向上に励んでいる。		

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が何をしたいのか等、不安な顔をしている時に、それを見極め、声かけして不安を取り除き、安心をあたえられ信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族と本人さんの歴史や、関係性、苦労話など傾聴し、これからどのように過ごしてほしいか等要望を伺い家族と事業所で本人を支えていける様な関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際、本人・家族のおかれている状況を考慮し何が必要か見極め、必要ならば他事業所と連携しその方の「今」に必要な支援が受けられる様な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ物を食べ、同じ物を見、同じ事をしてお互いを理解し支援、サービス、関係作りに努めている。利用者自身で季節の花を植え、他利用者・職員も季節感を味わう事ができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活、健康状態、行動など面会時伝え、必要な時は電話でも伝えている。又誕生日には、家族も一緒にお祝いをしたり、生年祝い等は家族と一緒に企画したり等家族・事業所で共に、本人を支えていく関係づくりが出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物・ミニドライブ・自宅の様子を見に行ったりの支援をします。子や孫、友人たち達が面会に来られる様な雰囲気づくりを心がけている。又、信仰している宗教活動が継続できるよう家族と共に支援し、活動(礼拝)を継続してもらい馴染みの人・場が途切れない様に支援に努めている	入居者の家族が全員同地域に在住しており、子供や孫の面会や外出や外食を楽しみ、友人知人の面会も継続している。入居者の「カジマヤー祝い」では親族友人知人の交流が出来た。又宗教関係者は毎日曜日に教会の礼拝に参加し馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しが困難な方は、介護者が間に入り声かけ対応し、話しが出来る方であっても常に気をくばり必要に応じ介護者が仲に入り対応するように努めている。利用者間の交流が出来る様な支援が出来るように努めている。		

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後であっても、家族と連絡を取ったり近況を確認したりし、関係が継続できるように努めている。 亡くなった方の思い出のアルバムを渡し、法事に参加し生前の様子などを家族と語り喪失感が軽減できる様に関わる等の支援を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りの希望・意向を日々の言葉・表情などより把握し本人らしい暮らしができるように努めている。自分の思いを伝える事が難しい方でも、コミュニケーションに努める事によって気持ちの表出がみられたり、歌を唄い笑顔がみられるようになり、表情が豊かになるなどの変化がみられる事があった。	入居者は「自宅で暮らしたい・家の片づけをしたい・パートナーを見つけて自宅で暮らしたい」等の希望があり、家族と相談し、週1回数時間の帰宅支援を行い、「共に自宅で過ごす」時間を提供している。表現が困難な方は、表情や態度で汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話しを聞き、これまでの暮らし方や生活環境の把握に努めている。 信仰している宗教など、利用者によりおのおのの違いがあるが、これまでの暮らし・習慣が継続できるように把握し支援できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録より本人の言動や行動を観察し本人の有する能力、好きな事などの把握に努めている。園芸の好きな方には、園芸出来る環境を整えたり、歩行訓練を兼ねて散歩をする利用者さんは他の利用者とは歩く事により、緊張感が出て早く歩く事が出来る様になった。等些細な行動に注目・把握し支援につなげる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング等で全職員で話し合い、本人や家族に思いや意見を取り入れながら、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングは3か月に1回全職員で観察を行い状態の認識をしている。ケアプランは申請時又は状態変化時に入居者・家族・担当職員と介護支援専門員がサービス担当者会議を持ち作成し、入居者家族の了解を得て、職員が共通理解し支援を継続している。	主訴は長期短期目標に挙げ、主訴が叶えられるサービス内容を具体的に検討し記載する事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事摂取量・排便状況を観察、記録し、その内容を検討し状況に合わせ、必要なケアを実施している。必要な際は、その内容も計画に反映できる様に実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、通院や退院等を支援している。又冠婚葬祭など、家族の希望や相談に応じて、送迎や支援などに取り組んでいる。		

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや慰問、中学生の体験学習の受け入れを実施し、利用者が地域の方と触れ合う事ができるよう支援している。 地域の美容室の方が、希望に応じ訪問し、本人の望む髪型(パーマ等)を実施してもらう等し、地域資源との協働に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所の月2回の往診を受けている。 診療所とは月2回以外も、状態に変化があった際はいつでも連絡が取れる体制を整えている。 看護師とも連携を密にしている。 必要に応じて家族と協力し、他の医療機関を利用し、適切な医療が受けられる様に支援している。	入居前からのかかりつけ医である為、往診を全員受けている。家族への報告は口答で行っている。他科受診(精神科、眼科)の送迎や付き添いは、基本家族が行っているが、必要に応じて職員が対応している。職員間は申し送り等で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	食事摂取量や排便状況、「いつもと違い元気がない」など些細な変化や気づき等も、介護職員より事業所中の看護師に伝え、家族・かかりつけ医らと相談し、適切な医療が早期に受けられる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者、家族、相談員と情報交換を行い、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より重度化した場合は、どのようにしたいか、本人・家族の意向を確認している。 状態の変化があった場合など本人・家族と随時話し合いを行い家族のその時々々の要望を聞き、事業所で出来る範囲を説明し、看取りを希望する方に対しては、かかりつけ医らと協力し、事業所内で終末期ケア・看取りを実施している。	事業所独自の看取り指針や同意書を作成している。入居時や状態変化が見られた時に入居者、家族の意向を確認している。医療機関と連携を取り、看護師である管理者を中心に内部研修を行っている。5月に看取りを行った際には、他の利用者も手を合わせ、お見送り出来るよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される、普通救命講習をほとんどの職員が受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報装置・スプリンクラーが設置され、消防署の協力のもと、区長・地域住民にも協力、参加して頂き訓練を行っている。 運営推進会議でも役員担当者・包括・区長より地震・津波などの災害に対する話し合いをもち、今後全体的な訓練がある場合など、事業所も一体となり訓練に取り組むなど実施していきたい。	12月は自主訓練にて、夜間を想定した避難訓練を実施。6月には、消防署の協力の下、夜間想定避難訓練を利用者とともに実践している。近隣住民の参加協力もあった。備蓄は、食料品やオムツ等を入居者の分以外に地域の方の分を多めに備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する勉強会の開催や、毎月のミーティングなどでの利用者に対する介護の在り方など随時話し合いを持つ事により、プライバシーを損ねないような関わりが出来る様に努めている。トイレ使用時安全面の考慮により、ドアの開閉が確実ではない事などあり、今後も継続して勉強会の実施など取り組み、意識を高める様に努めていきたい。	職員は、認知症の理解や接遇について研修等で学び姿勢を共有している。職員の言葉かけや対応が気になる時は、ミーティングや管理者が個人的に注意をするよう取り組んでいる。入居者一人ひとりの思いを大切に、手伝い等は本人に確認しながら自己決定しやすい言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にその日のメニューなどの希望を聞き決定したり、おやつ・飲み物を数種類準備し、本人の希望を伺い決めてもらう等の自己決定できる場面を意識的に作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など決まった時間はありますが、朝園芸活動に夢中になっている方は、その方に合わせた時間で食事を提供している。入浴なども希望の時間や急に入りたい等の希望に応じてその方の一人ひとりの暮らしを尊重出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の習慣で毎日化粧している方に関しては、家族と協力し、化粧品の準備や時には共に購入しに行く等の支援。又昔からの習慣で背広を着ける方に関しては外出時はその習慣が継続できる様にし、その人らしい身だしなみが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの役割やその人が持っている力、好み等に応じて、野菜の下準備やおしぼりたたみ、お膳拭き・食後の食器片付け(より分け)を行っている。又職員は全員同じ食事を食べ、感想を言い合ったりし食事を楽しむ時間・空間を感じる事が出来る様に心がけている。	野菜は近隣の方からの差し入れ等も多く、メニューは当日の食材を確認し、肉や魚を取り入れながら、入居者と一緒に相談し決めていく。入居者一人ひとりの力を活かし、下ごしらえやお膳拭き等行っている。職員は入居者と同じ献立の食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取量を把握し、記録している。摂取量が少ない利用者は経口栄養剤を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを支援している。歯磨きが難しい方は、ガーゼでのふき取り等個々の状態・力などの合わせ口腔ケアの実施に取り組んでいる。		

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は個々の排泄パターンに応じてトイレ誘導を行っています。出来る限りトイレでの排泄を目指し、排泄パターンの把握・分析など個々に応じた支援を実施し、自立へ向けた支援に努めています。	排泄チェック票を利用し、入居者一人ひとりの行動パターンや排泄パターンを把握。ミーティング等で支援方法を共有し、自立・声掛け誘導・夜間ポータブル・全介助の支援を行っている。失敗時はさりげなくトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜やヨーグルト等を食事に多く取り入れている。運動(散歩や体操)を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決まっているが希望がある場合は、その都度入浴できるようにしている。入浴拒否などある場合は、時間や人、場面を変えるなどタイミングを図り、臨機応変に対応し清潔保持に努めています。 又、冬は湯船も準備し希望に応じて浸かってもらい入浴を楽しめる様に努めています。	毎日入浴を行っているので、入浴日の変更や「湯船に浸かりたい。」等の入居者の希望に沿って支援している。入浴を拒む入居者には、清拭や足浴等にサービスを変更して対応している。浴室の脱衣所は、夏は扇風機を使用して気温の変化を考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調を確認して、日中天气が良い日は、日光浴や散歩等行い、夜間は熟睡できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を準備して、いつでも見れるようにしている。症状の変化などあればすぐに看護師に報告している。必要に応じ、かかりつけ医に報告し、薬の調整を行っている。 薬の変更などがあった際は、申し送り・日誌などを活用して情報を共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ミニドライブや近所への散歩・花園の手入れ、歌を歌ったりし、気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花畑等へのドライブや、自宅や花の苗の購入などの外出。又毎週日曜日に礼拝の為に外出へ行く方を家族と共に支援している。 又、行事などでみんなで桜やつつじ祭りの見学、その後には外食したり等し外出支援を実施している。	事業所の周りを、車いす利用者も職員と一緒に散歩するのが毎朝の日課となっている。ドライブは、あじさい園、八重岳、海洋博記念公園等普段は行けない場所へ出かけられるよう支援している。「自宅に荷物を取りに行きたい」「化粧品や服を購入したい」等の個別の外出も行っている。	

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得てお金を持っている方もいます。利用者がほしいものがあれば家族に連絡し立て替えて購入する様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話は自由に使用できるようにしている。 自分でかける事が難しい方には、ダイヤルするなどの手伝いなどを実施いつでもやり取りが出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの上には身近な野菜・果物等を飾ったり・花等を飾ったりして、利用者と一緒に会話を楽しんでいる。 EMの散布などをしにおいなどにも留意し居心地のよい共同空間づくりに心がけている。	広い園庭には木々が植えられ、毎朝の散歩コースで季節を感じられる。玄関には利用者と職員が作成した季節飾りが飾られている。共有空間は木目調で、家庭的な雰囲気である。リビングでは、入居者が野菜の下ごしらえや新聞を読んだりゆったりと過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士、話ができるように、食堂・テレビ前や廊下などに椅子を置いて、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人は、使いたれた物や、好みの物を家族に依頼し持ってきてもらい、使用している 本人の信仰する用品なども持ち込んでもらい、安心して過ごせる様に配慮している	居室は入居者が使い慣れた寝具や時計、椅子や三段ボックス等を持ち込み、ラジオや化粧品等好みの物を購入し使用している。家族の写真を飾る等入居者が思い々の心地よい居室造りを支援している。季節の衣替えや居室の模様替えは職員と一緒に取り組み、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に手すりなどを取り付けている。 居室・トイレ・浴室等にナースコールを設置している。		